



平成30年5月22日(日)●川口市立岸川中学校体育館

# 剣道継続率向上プロジェクト

## Kendo friends forever

### 剣の友は一生の宝

撮影：杉能信介

中学生たちの剣道継続率を向上させるために――。  
 埼玉県川口市を中心に、  
 中学校教諭・道場指導者と本誌が起こした本プロジェクト。  
 剣道で仲間をつくる楽しさを知ってもらおう。  
 普通の錬成会とはちょっと違う、  
 様々な工夫がほどこされたイベントが行なわれた

この錬成会は、中学から高校に進学する剣道部の生徒たちの継続率が約1割という現状を踏まえ、「どうしたら継続率が上がるのか」という問題からスタートしている。今回、本誌の剣道継続率向上プロジェクトに手を挙げてくれたのは、埼玉県川口市を中心とした13の中学校剣道部・少年剣道団体。

発起人の一人である、七条剣教諭（朝霞市立朝霞第二中学校）はこう語る。

「実際に、卒業後顔を見せに来てくれるOB・OGたちに「部活はどうした」と話をきいてみると、剣道を選んだ子は『迷ったけど、他の錬成会で知っていた子たちと入部しました』、という話をきくケースがありました。高校に進学する際、また剣道部に入る理由は大体が「知

っている子に誘われたから」「知っている子がいたから」というものです。そのことに着目し、横のつながりを広げてあげることが剣道の継続率向上につながっていくのでは、という思いがありました」

今回集まった13の団体の部員たちの多くは中学生から剣道を始めた、初心者が多分以上を占める。「剣道の知り合い」となると、同じ学校の部内の仲間程度。錬成会など出稽古に出ても、他校の生徒と会話を交わす機会が多く持てない。たいていは顔見知り程度で終わってしまう。つまり、横のつながりが持ちにくい。

今回の剣道継続率向上プロジェクトにおいては、横のつながりを意識した取り組みに終始した。今回の会の内容については、剣道緑ノ風代表の山根洋平氏らの

## 剣道プロジェクト 1日の流れ



アイディアが組み込まれている。今回は百名以上が参加するせっかくの機会。まず行なったのが、チームの組み替えだった。5人全員の所属がバラバラになるようにチームを組み、即席でチー



ム名を考えさせた。今日一日、食事等全においてともに行動させるようにした。次に、試合の前に行ったのが、「シャドー」と呼ばれる、竹刀を持たずに剣道の動きのみで有効打突を判定するもの

### ① チーム決め

所属が違う者同士で5人組を即席で組み、チーム名を考えさせた。この時点でも、雰囲気は思ったよりも良い。恥ずかしながらも、楽しそうにチーム名をどうするか相談し合っていた。男子たちは「命」風「風」など、1文字で決める風潮ができていたが、女子は「ひよこりはん」「走れベンギン」など個性的な名前が目立った



### ② シャドー

小手、胴、垂れは着用するが、竹刀を持たず、面も着けない。各チームの先生が1審制で勝敗を決めた。ここでは「うまく決め切れるか」「機会をとらえているか」などが判定の基準になったようだ。遊びのような感覚で取り組めたので、ここでポジションが高まり、チームワークが出来てきた。ポジション決めや応援の仕方もうぐっと具体的になり、「チームの輪ができていく」感じが、傍目にも見て取れた

(審判は、各学校の先生の一審制・三本勝負)。レクレーショ的な意味合いも強く、ここでポジションが一気に高まりチームの輪もぐっと強くなった。このシャドーを踏まえて、団体戦の試

### ③ 試合

シャドーを1時間程度行なったあと、5人制の団体戦を实行。シャドーのおかげでチームワークが高くなっており、各自が試合の流れを意識しながら試合するなど、即席のチームとは思えないほどのチームワークの良さが出ていた。昼食休憩のあと、再び試合。彼らは1日中、即席チームで行動。昼食も一緒だった



合を实行。4チームのリーグ戦を行った後、決勝トーナメントを行ない優勝をあらそった。「今回、初めての子同士でチームを組ませ一緒に行動をさせました。様子を見る



決勝戦は、男女ともに1コートのみで行った。女子はチームぶりきゅあがチームイケメンを3-1で撃破。男子は、チーム神がチーム命を2-1の接戦で制した



応援する様子。どうやったらチームが勝てるかなど具体的に相談している様子が見て取れた。



男子優勝・神

先鋒から宮原享汰(竹紫館)、小澤拓空(吉川中央中)、増田諭暉(上青木中)、黒葛原翔(岸川中)、神尾僚佑(朝霞二中)



女子優勝・ぶりきゅあ

先鋒から白川鈴音(岸川中)、鈴木美紀(朝霞二中)、手塚陽菜(上青木中)、遠藤瑞歩(三室中)、山田梨子(竹紫館)



発起人である七条剣氏(朝霞市立朝霞第二中学校教諭)。子どもたちの横のつながりを深めていきたいと語る



昼食の前に、男子選抜対女子選抜によるシャドー対決が行なわれた(7人制)。2試合行ない、いずれも女子が勝利した

と、どの子も非常に楽しそうなので、よかったですと思います。レクリエーション的な錬成会だったので、いつもよりリラックス、笑顔も多くなっているのです、こういうのもあっていいですね。今回は、顧問のつりが強い学校が集まっているので、子ども同士もなんとなく知っている者同士が集まっていますが、次にやる時は、まったく剣道の専門ではない顧問の先生がついている学校とやってみたいですね。ただ、今回はじめてやった印象としては手ごたえがつかめました(七条氏)

参加校・参加団体一覧

《少年剣道団体》

緑ノ風

新狭山

鴻巣

上尾誠心会

南武剣誠会

竹紫館

《中学校剣道部》

越谷市立栄進中学校

朝霞市立朝霞第二中学校

さいたま市三室中学校

吉川市立中央中学校

川口市立南中学校

川口市立上青木中学校

川口市立岸川中学校



最後に、全員で垂れ幕に寄せ書き

試合終了後、真剣に話を聞く部員たち



参加者の感想

◎今回の錬成会ではいつもと違った仲間、いつもと違ったポジションで試合をしました。いつもと違ったポジションで試合をする事で、仲間一人一人の大切さ、有難さを、身をもって実感できました。また、いつもとちがった仲間と試合を一緒にして、いつもと違った体験を沢山することができました。とてもいい経験になりました。これから私は剣道を通して皆さんの仲間をつくり、10年、20年、30年まで剣道を継続していきたいなと思いました。これからも剣道頑張ります。

◎今回この錬成会に参加して、他の学校の人とチームを組んでとても新鮮でした。そして、とても印象が残る一日でした。剣道関係で友達をつくる機会があまりないため、剣道の友達が少なかったのですが、このプロジェクトで友達を作れて、とても嬉しかったです。エアーでの試合がとても楽しかったです。この試合で、チームの絆を深めることができました。優勝はできなかったけど、とても楽しく試合ができました。高校では、中学で剣道がわからなかったから剣道絶対やらないと思っていたけど、このプロジェクトを通じて、高校でもやってみようかなと少し思うことができました。このプロジェクトの最初の参加者になれて、とても嬉しかったです。

◎今までいろいろな場所に錬成会に連れて行っていただきました。でも今回「剣道継続プロジェクト」に参加して、普段学校単位でチームを組んでやってきたのが、他校の人とチームを組み、剣友を作ることが出来ました。やったことのないシャドウや知らない人とコミュニケーションを取ることが出来る良い機会となりました。僕が今回の錬成会を通じて感じたことは、高校になっても剣道を続けると思っただ事です。また、このような機会があれば参加して剣友を増やしていきたいです。

◎とても楽しかったです。今までに一度もなかったタイプの錬成会だったので、初めは緊張しました。自分だけ話に入れないんじゃないか、自分から積極的に話しかけられるかなど心配が多くありました。いざ5人組になると、やっぱり動揺と緊張がありました。でも話を少しずつしていくうちに、けっこう楽しくなってきました。見たことのある人がこういう人だったんだと思えばびっくりしたりしました。あんまり話す機会がないからこそ沢山の話を話すことができました。昼食休憩の前にやった女子対男子のシャドウもとても楽しかったです。良い経験にもなりましたし、よい思い出にもなりました。高校生になっても剣道を続けるかはわかりませんが、今ある大きな大会に全力で取り組んでいこうと思います。